



2017年4月11日

各 位

会 社 名 株式会社 東芝
東京都港区芝浦1-1-1
代表者名 代表執行役社長 綱川 智
(コード番号: 6502 東、名)
問合せ先 執行役常務 広報・IR部長
長谷川 直人
Tel 03-3457-2100

四半期レビュー報告書の結論不表明に関するお知らせ

当社は、2016年第3四半期の四半期連結財務諸表について結論を表明しない旨の四半期レビュー報告書を本日受領しましたので、下記のとおりお知らせします。

なお、これを受けて、当社は本日中に第178期第3四半期報告書を提出する予定です。

記

1. レビューを実施した監査法人の名称

PwCあらた有責任監査法人 (以下、監査法人)

2. 四半期レビュー報告書の内容

受領した2016年度第3四半期報告書に係る四半期レビュー報告書に記載された内容は以下のとおりです。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

しかしながら、「結論の不表明の根拠」に記載した事項により、当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手することができなかった。

結論の不表明の根拠

注記 21.重要な後発事象の通り、米国ウエスチングハウスエレクトリックカンパニー社 (以下、「WEC」という) による、CB&I ストーン・アンド・ウェブスター社の買収に伴う取得価格配分手続の過程に関連して、一部経営者による不適切なプレッシャーの存在を示唆する情報がもたらされた。株式会社東芝の監査委員会は、外部弁護士事務所等を起用して、一部経営者による不適切なプレッシャーの有無及び会計への影響等に係る調査を実施した。当監査法人は

当該調査の評価を継続中であり、本四半期レビュー報告書日現在終了していないが、株式会社東芝は第3四半期連結財務諸表を作成し、提出することとした。

継続中の評価の対象事項には、注記19.企業結合に記載されている、2016年度第3四半期末における四半期連結貸借対照表計上額495,859百万円の前提となる取得日現在の公正価値635,763百万円の工事損失引当金について、当該損失を認識すべき時期がいつであったかを判断するための調査に対する当監査法人の評価も含まれている。また、その他にも当監査法人の評価が終了していない調査事項があり、これらの影響についても、確定できていない。

四半期レビュー報告書日現在、当該評価手続が継続中であり、当監査法人は、株式会社東芝の監査委員会による最終的な調査結果を評価できておらず、その結果、当監査法人は、上記の四半期連結財務諸表に修正が必要となるか否かについて判断することができなかった。

結論の不表明

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、「結論の不表明の根拠」に記載した事項の四半期連結財務諸表に及ぼす可能性のある影響の重要性に鑑み、株式会社東芝及び連結子会社の2016年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかったかどうかについての結論を表明しない。

なお、当社は、監査法人から、2016年度第1四半期報告書及び2016年度第2四半期報告書について、上記と同様の理由で、結論を表明しない旨の四半期レビュー報告書をそれぞれ受領しております。

3. 四半期レビュー報告書の受領日

2017年4月11日

4. 当社の状況及び今後の対応

(1) 事業の状況について

当事業は、巨額損失の原因となった海外原子力事業を除き、概ね順調に推移しております。なお、海外原子力事業につきましては、2017年3月29日付「当社海外連結子会社ウェスチングハウス社等の再生手続の申立について」にて公表のとおり、ウェスチングハウス社（以下、WEC）等が米国連邦倒産法第11章に基づく再生手続の申立を行ったため当社の連結対象から除外されております。この非連結化は、海外原子力事業のリスクを遮断することを目指す当社の方針にも合致すると判断しております。

また、当社は、財務状態改善に向けて、2016年度に約1,600億円の保有資産の売却を行うとともに、役員報酬返上、役職者の給与減額、役職者・一般者の賞与減額、諸手当・日当などの削減といった緊急対策等のあらゆる施策を実施してまいりました。加えて、メモリ事業のマジョリティ譲渡を含む外部資本導入を検討しており、2017年4月1日付でメモリ事業の分社化を完了し、現在譲渡先の選定プロセスを進めております。当社としては、このような施策の実施に加え、メモリ事業の事業価値をも考慮すれば、実質的には十分な財務的基盤を保持しているものと考えます。

(2) 2016年度通期の決算手続について

当社監査委員会としては、外部専門家の調査報告を踏まえ、2016年度第3四半期連結会計期間以外の期でCB&Iストーン・アンド・ウェブスター社に係る損失を追加認識すべき具体的な証拠は発見できませんでした。監査法人は、当社監査委員会による最終的な調査結果を評価できておらず、その結果、四半期連結財務諸表に修正が必要となるか否かについて判断することができませんでした。しかしながら、これ以上第3四半期報告書の提出を遅らせることは、企業情報が開示されないことによるステークホルダーに与える不利益が極めて大きいと判断し、当社は第3四半期報告書を作成し、提出することにしました。

なお、上記にて申し上げておりますとおり、ウェスチングハウス社グループは既に当社の連結対象から除外されているため、この問題は来年度以降の財務諸表には重要な影響を及ぼさないものと認識しております。

2016年度第3四半期決算手続の延長により、年度決算に関する監査手続は時間を要するものと考えますが、5月中旬には決算の内容を公表する予定です。

以 上